

大学院共通科目 01ZZ303

サイエンスコミュニケーション講座 II (バイオサイエンスコミュニケーション
の実際)

日程：10/5 金-6 土 9：00-17：00

タイトル：社会問題と向き合う科学技術

原発事故を受けて社会の中での科学技術のあり方が改めて厳しく問われている。5日はリスクコミュニケーションについて考える。リスクコミュニケーションという概念は、これまで往々にして研究室内でのシミュレーションテーマとして扱われてきた傾向にあるが、本来は社会がリスク回避するために、関係者がいかに効果的に情報を共有するかという実学であるべきと考える。座学を離れた、現実のリスクコミュニケーションの考え方と応用について、講義と演習を通じて一緒に考えてみたい。6日は、遺伝子組換え作物や BSE の問題、ナノテクノロジーの応用、エネルギー・環境問題などを事例に挙げつつ、望ましい科学技術の姿をどのように探り当てて行くことができるのかを、市民参加や対話、コミュニケーションの重要性とその具体的な方法に触れながら考える。

講師

10/5 郡山一明 (財団法人救急振興財団 救急救命九州研修所教授, 医学博士)
武原信正 (ライフサイエンス出版 代表取締役)

10/6 三上 直之 (北海道大学 高等教育推進機構/大学院理学院科学コミュニケーション講座 准教授)

参考図書：

地域環境の再生と円卓会議 三上直之著 日本評論社

討議デモクラシーの挑戦：ミニ・パブリックスで拓く新しい政治 篠原一編 岩波書店